シンポジウム記録 日本水産学会のこれから—課題と展望

4-(1) 今後の学会のあり方—2:

支部活動の視点から

—シニアとジュニアで活性できるか

荒井修亮

京都大学フィールド科学教育研究センター

4-(1) What JSFS should be in the future?—2:

From the view point of the local branches

— Can a senior and the youth activate society activity?

NOBUAKI ARAI

Field Science, Education and Research Center, Kyoto University, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, Japan

1. 4年間を振り返って思うこと

団塊世代が定年を迎える頃ということで、特別講演「先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と技術者へ」を企画しました。最初は演者が見つかるかと懸念しましたが、毎回、幹事会において、講演依頼候補者の提案がありました。またご講演は期待通りの大変興味深い内容で、この機会に話をうかがえたことは、有意義でした。定年を機会に多くのシニアが学会を退会されることがあるとのことですが、定年後にも声をかける機会を増やすことで学会の構成員として繋ぎ止めることができるのではないかと思います。

新しい企画として、「支部コン」を開催しました。これには若手の光永幹事と三田村幹事がネタの仕込みから運営にと活躍してくれました。実際、この企画でマッチングが旨く進んで共同研究に至った例もあり、有意義な企画であったと思います。

最近、高大連携が叫ばれており、JSTの事業 ELCAS が平成26年度から拡大され、京都大学全学で高校生が研究を行う姿が見られるようになっていきます。こうした状況で、近畿支部においても高校生が参加できる企画を行いました。幸い、近畿大学、京都大学の水産学科の卒業生が京都府立海洋高校、同嵯峨野高校に勤務しており、彼女たちに声をかけることで、多数の高校生が参加できる企画が可能となりました。具体的には上記「支部コン」への参加と高校生ポスター発表を行いました。また上記 ELCAS で研究を行った高校生が今年の春季大会にエントリーしました。

2. 残念なこと

近畿支部の担当は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の6府県です。奈良以外には水産主務課と水産

試験場(名称は変わっていますが)があります。しかし、支部活動に積極的に参加されるところは限られているのが現状です。組織改変や定員削減の影響で学会活動まで手が回らないことは他人事でなく感じるところです。水産業の現場に最も近いところで日々活躍されている方々に何とか参加していただけるような企画・運営もあったのではないかと反省しています。

3. 平成26年度から29年度の4年間の支部活動

私が支部長として行った4年間の活動は以下のとおりです。

平成26年度

日時 11月24日(土)

場所 京都大学農学部総合館

内容 特別講演(眞鍋武彦氏, 坂本亘氏)・研究発表 11件

平成27年度

日時 7月11日(土)

場所 京都大学北部生協会館

内容 「支部コン」

若手の研究者、学生、院生が以下の研究テーマをアピール。その後、出席者との交流会で共同研究の可能性や情報提供の可能性など意見交換を実施。8件のアピール。

日時 12月13日(日)

場所 京都大学農学部総合館

内容 特別講演(川合眞一郎氏, 反田實氏)・研究発表 10件

平成28年度

日時 12月18日(日)

場所 京都大学農学部総合館

内容 特別講演(矢持進氏, 田中克氏)・研究発表・研究発表 15件

平成29年度

日時 7月8日(土)

場所 京都大学北部生協会館

内容 「支部コン」再び。高校生、社会人を含め9件のアピール。

日時 12月10日(日)

場所 京都大学農学部総合館

内容 特別講演(滝井健二氏, 山本義和氏)・研究発表 11件, 高校生ポスター発表 5件(京都府立海洋高校)